

7. 夫婦岩

藤ヶ瀬川の水が厚東川と合流するところに大小二つの岩がある。伝説に依れば、この岩は上流の秋芳町嘉万から流れて来たと言い伝えられており、今も雨の夜、風の夜には、終日終夜「父恋し、母恋し、故郷恋し嘉万恋し」と生まれ故郷を慕って泣くと言い伝えられている。

8. 妙典供養碑（板碑）（平成3年4月1日町（現宇部市）指定文化財・建造物）

この板碑は、法華経供養のための経塚か、願主の逆修のための建立かは不明であるが、石造卒塔婆では町内唯一のものである。

中央に自然石の蓮台があり、その下に胎蔵界の大日如来を表す梵字をのせた形で、下方には「天文15丙午年8月24日 常音敬白 為妙典万部供養」と3行に彫られた銘文がみられる。

内藤隆春が今小野に西宝寺を建立し、この地に福王寺を建て父興盛の供養をしたとされている。

場所は、以前は大棚より小坂道に出るところにあったが、県道開通の際に現在地に移転された。

9. 吉部の大岩郷（昭和10年12月24日国指定文化財・天然記念物）

指定面積＝29,751㎡

巨大な石塊が累々と堆積している石海で、我国では珍しい奇観である。

鵬岩郷とも書き、太古、大鵬が北の国から石をくわえて運んできたことによる名称と伝えられ、また、大鬼が天秤棒の両端に大岩をさげて運んでいる時、天秤棒が折れて吉部と万倉に大規模の大岩郷ができたという伝説もある。

大岩郷の成因については、地下深くできた岩石が、長い年月の間に地殻変動が起きこの石塊を形成する石英閃緑岩が空気や水の作用で風化し、砂質や粘土質部分が流出する河川作用とが併せて起きたものとする説が有力である。

岩塊の表面は風化作用を受けており、石質が堅硬なので、陽光面には植物はあまりなく、岩間の樹木の下などに、ウラジロゲシゲシゴケが生え、岩間は湿気を保っているため、せん苔類、地衣類が繁茂しており、ハナゴケ、ヤグラゴケ、トゲシバリなどの美しい群落が見られる。

岩間にせん苔類や地衣類が繁殖すると、高等植物が生じ、島しょ的群落ができる。吉部大岩郷にはこの島しょ的群落が数カ所あり、アカメガシワ、ヌルデ、ヤマガキ、アラカシ、ネズミモチ、ヒメユズリハなどの樹木が生じ、樹下に、ススキ、ナツツタ、ヒトツバなど、また石塊のさけめには、土やちりの堆積があり、孤立的にイネ科、キク科の植物、スズサイコ、時にはヒサガキ、ヌルデなどの椎樹も生じている。

昭和39年に実施された県の調査によれば、周辺の植物はハナゴケ、イワヒバ、ネズミモチ、ヌルデ、ヒメユズリハ、ムギラン、アラカシなど26種におよぶ。